



祐介の目

No.99

大田祐介 (福山市議会議員)

訪問した。奈良の大仏のような蒋介石が儀仗兵に守られて鎮座しており、まさに建国の父の待遇であった。

じつは昭和16年4月、福山41連隊は浙江省寧波市「溪口鎮」にある蒋介石の生家を

占領している。対日戦後、蒋介石・国民党は毛沢東・共産党との内戦に敗れて台湾に渡ったが「イヌ（日本軍）のあとにブタ（国民党）が来た」と台湾人に揶揄された。台湾人は国民党に反発し、二・二八事件では多くの台湾人が蒋介石により殺戮された。その反動により台湾人は一層親日となったそうだ。

ファイリピンと台湾を相次いで訪問した。ファイリピン・レイテ島タクロバンにて10月20日に開催されたマッカーサー上陸75周年記念式典に招待されたのである。節目の年の式典は盛大であり、会場の中央には巨大なファイリピン国旗、両翼に日米豪の国旗が翻る。中央には主役であるマッカーサーの巨大な銅像が立ち、まさに建国の父という存在であった。そのマッカーサー率いる米軍に立ち向かった歩兵第41連隊（福山）は善戦むなしく玉砕した。

スペイン・アメリカ・日本・アメリカと統治されてきたファイリピンだが現在はずっかり親日国となっている。なぜなら最後に来たアメリカが最悪だったからという。

次に福山山岳会の百周年記念登山として台北の七星山に登った。登山後に初代総統・蒋介石を顕彰する中正記念堂を

さて、日本の建国の父は神武天皇である。2月11日は建国の日「紀元節」であったが、戦後GHQ総司令官マッカーサーにより日本の文化から国家神道を徹底的に排除しようとする過程で廃止された。宗教心が軽んじられ、橿原神宮の参拝者や賽銭は減少、教科書からは神武天皇の名前も消された。「最後に来たアメリカが最悪」という意味がわかる。「建国記念の日」の復活には昭和41年までかかった。

マッカーサーと蒋介石の双方と戦った福山41連隊は日本の戦後史に大きな影響を及ぼしたと言えるだろう。